只見町

大いなる自然とともに歩む
わたしたちのくらし

2014 只見町勢要覧

福島県只見町

川沿いのヤナギ林と裏山のブナの新緑で春の訪れを知る。
ブナの開葉は例年ゴールデンウイーク。

もくじ

発行にあたり……1
旅立ちのとき 真に豊かな地域社会の創造へ……2
持続可能な地域社会への道すじ
只見町の選択「只見ユネスコエコパーク」……4
ただみ歳時記
色彩にあふれる春……6
いのち育む夏……8
黄金に染まる秋……10
こころ耕す冬……12
わたしたち ただみ人……14
沿革 中世より繋がるまちのかたち……18
まちの宝 只見町が誇る文化財……20
まちの誇り 伝え残していきたいもの……22
福祉 地域のつながりのなかで こころ豊かに暮らす……24
教育 まちづくりは人づくりから
豊かな環境と充実した制度……26
産業 人、自然、資源 そして環境を活かして……28
生活・環境 安心、快適に暮らす……30
観光 人を呼ぶまちの魅力……32
只見町絵地図……34
行政・議会 町民とともに協働のまちづくり……36

只見ユネスコエコパーク登録祝賀会の会場で、神楽を披露した梁取芸能保存会の方々と歓談する目黒町長（中央）。

発行にあたり

只見町は昭和34年に旧三か村の合併により誕生し、はや半世紀の時が流れました。この間、日本は驚異的な経済成長を遂げ、只見町も生活基盤の整備が進み、都市部に遜色のない便利で豊かな生活を享受できるようになりました。しかし一方で、過疎と高齢化は一段と進み、さらには急激に進む国際化の波の中に埋没しかねない状況にさえあります。しかしながら、そのような中にあっても只見町は豊かな自然に恵まれ、そのなかで暮らし育んできた文化や伝統が、今なお力強く息づいています。それは厳しくも豊かな自然と向き合って暮らしてきた先人達のたゆまぬ努力の賜であります。

このたび、只見町はユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録されました。これは町の豊かな自然に対する学術的な裏付けとともに町の伝統的な暮らしや文化的な価値が国際的に評価されたことによります。これまでも「自然首都・只見」「ブナと生きるまち　雪と暮らすまち」を前面に掲げ、只見町ブナセンターの設立、交流促進センター（季の郷湯ら里）や山村のくらし体験施設（森林の分校ふざわ）などを拠点に都市との交流事業を精力的に進めてまいりました。これからも只見町は、日本の原風景である農山村の景観を守り、地域資源に立脚した小さくても光る持続可能な地域社会を目指してまいります。ユネスコエコパーク登録を期に只見町の持つ魅力に自信と誇りを持ち、都市との交流、さらには定住促進にむけて取り組むことが、町の活性化、活力向上に繋がるものと考えます。

この町勢要覧が、多くの方々に「ふるさと只見町」をより良く知っていただくための一助となれば幸いに存じます。

只見町長　目黒吉久

Forward

Half a century has passed since Tadami Town was established from the merging of three villages in 1959. During this time, Japan has achieved remarkable economic growth, and the quality of life for residents of Tadami has increased as well. The changes made have led to convenient and high-quality standards of living, as good as any urban city. On the other hand, the rate of depopulation, combined with the aging population in rural areas has increased. Furthermore, a huge wave of internationalization is currently hitting Tadami. However, Tadami has been blessed by nature, and despite these circumstances, the culture and tradition nurtured by the environment still thrive. The town owes its current prosperity to the continuous efforts of our ancestors, who coexisted with the harsh yet bountiful natural surroundings.

Tadami Town is registered as a “Biosphere Reserve.” This is an academic endorsement of Tadami’s abundant nature. We can also say that traditional lifestyle and cultural values found in Tadami are highly regarded internationally. Tadami has aggressively implemented the “Capital of Mother Nature Tadami” and “A Living Town Amongst the Beech Trees and Snow,” campaigns, while also pursuing exchanges with cities , including establishing the Tadami Beech Center, the Exchange Promotion Center, and the Mountain Life Interactive Center. The town will continue to protect the beautiful mountain village scenery that is associated with classic Japanese landscapes. We will also try to build a small but outstanding sustainable society based on community resources. With the registration of the Town as a “Biosphere Reserve”, the town should grow more confident in its allure. The town should also work on exchange with urban cities, and the promotion of settlement in this area. I believe such activities will lead to a revitalization of the town.

I would be truly grateful if this statistical survey could help many of you get to know more about “Our hometown, Tadami.”

Meguro Yoshihisa
Tadami Town Mayor

旅立ちのとき

真に豊かな地域社会の創造へ

只見町は日本の多くの中山間地域と同様、過疎・高齢化が急速に進み、地域社会をどう維持していくかという問題に直面しています。

町では平成18年に第六次只見町振興計画を策定し、「ブナと生きるまち　雪と暮らすまち　奥会津只見の挑戦　真の地域価値観の創造」という理念をかかげました。従前の都市追随型の地域振興との決別であり、豊かな自然を活かした新しい地域社会の創造を目指すものです。

さらに、平成19年には、日本の自然の中心は只見であるという「自然首都・只見」宣言を行い、ブナ林に

Reserve

代表される只見の自然環境を保護・保全し、次世代に引き継いでいく責務を宣言しています。

そして、その理念を推し進めるため、ユネスコが掲げるユネスコエコパーク（Biosphere Reserves）への登録を決意しました。

ついに、平成26年6月、わたしたちの思いは通じ、只見ユネスコエコパークが誕生しました。

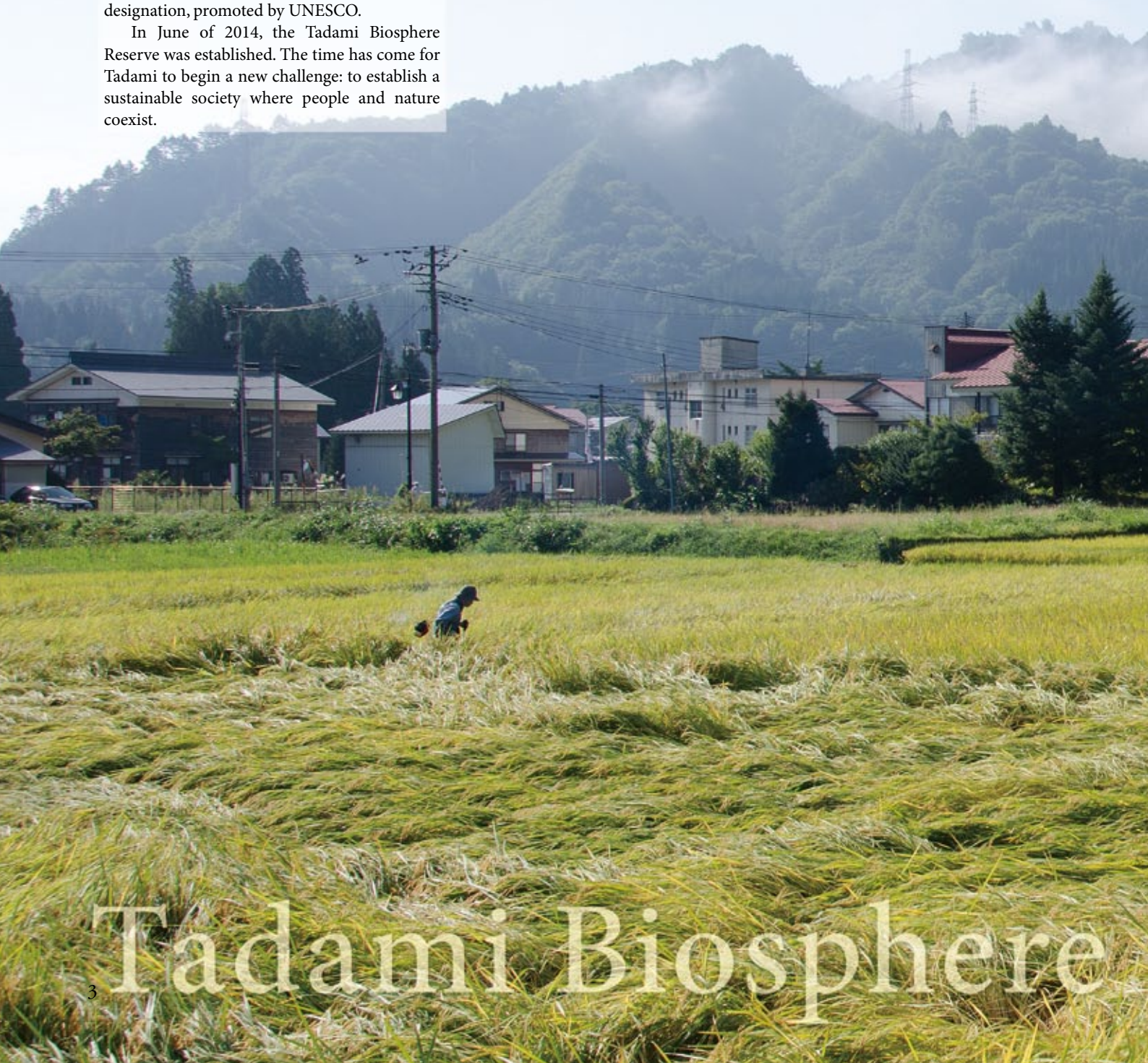
持続可能な社会、人と自然とが共生できる社会を目指し、只見町は新たな挑戦のときを迎えたのです。

It's Time for the Future: Imagining a Truly Prosperous Community

These days, many other mountainous regions in Japan are struggling with rapid depopulation and aging communities. Tadami Town is facing the same problem, and is confronted with the question of how to maintain local communities.

In 2006, the town created the sixth Tadami Promotion Plan, and founded a new philosophy: "A Town Amongst the (Beech) Trees and Snow" – Oku-Aizu Tadami's Challenge: Creating True Values." Furthermore, in 2007, the tow was declared Tadami "Capital of Mother Nature Tadami", or the heart of Japan's nature. The town also established its responsibility to preserve and conserve Tadami's natural surroundings, and to pass them on to the next generation. In order to advance this philosophy, the town decided to apply for the "Biosphere Reserve" designation, promoted by UNESCO.

In June of 2014, the Tadami Biosphere Reserve was established. The time has come for Tadami to begin a new challenge: to establish a sustainable society where people and nature coexist.



Tadami Biosphere

持続可能な地域社会への道すじ
只見町の選択「只見ユネスコエコパーク」

Creating a Sustainable Community
Tadami Town's Choice: "Tadami Biosphere Reserve"

田植え前の黒谷地区

ユネスコエコパークの理念を柱に動きはじめた只見町

平成26年6月、スウェーデンで開催されたユネスコMAB国際調整理事会において「只見ユネスコエコパーク」の登録が決定されました。

7月には、町内外24団体の代表からなる只見ユネスコエコパーク推進協議会の第1回目の会合が開かれ、各種研究者からなる支援委員会も発足しました。

只見町は、ユネスコエコパークの登録により、その優れた自然環境の保全と持続可能な利活用を町の基本理念とすることで、永続的で魅力ある地域づくりに向け、さらなる前進を誓い、動きはじめました。

只見ユネスコエコパーク登録までの歩み

H14年~16年 河野昭一京都大学名誉教授をリーダーに「ブナ林学術調査事業」実施。只見町のブナ林の遺伝的多様性の高さ、生物多様性の豊かさが明らかにされる。

H17年 国内外の研究者が集まり、「世界ブナ・サミット」開催。只見町のブナ林をはじめとする自然環境の価値が広く認知される。

H19年 ブナを核とした地域づくりを目指し、「只見町ブナセンター」設立。「自然首都・只見」宣言を行う。

H22年 酒井暁子横浜国立大学准教授を講師に「ユネスコエコパーク講演会」開催。

H23年 「自然首都・只見」ブランド確立のための検討委員会発足。

H24年 「自然首都・只見」ブランド確立検討委員会の提言により「只見ユネスコエコパーク検討委員会」発足。

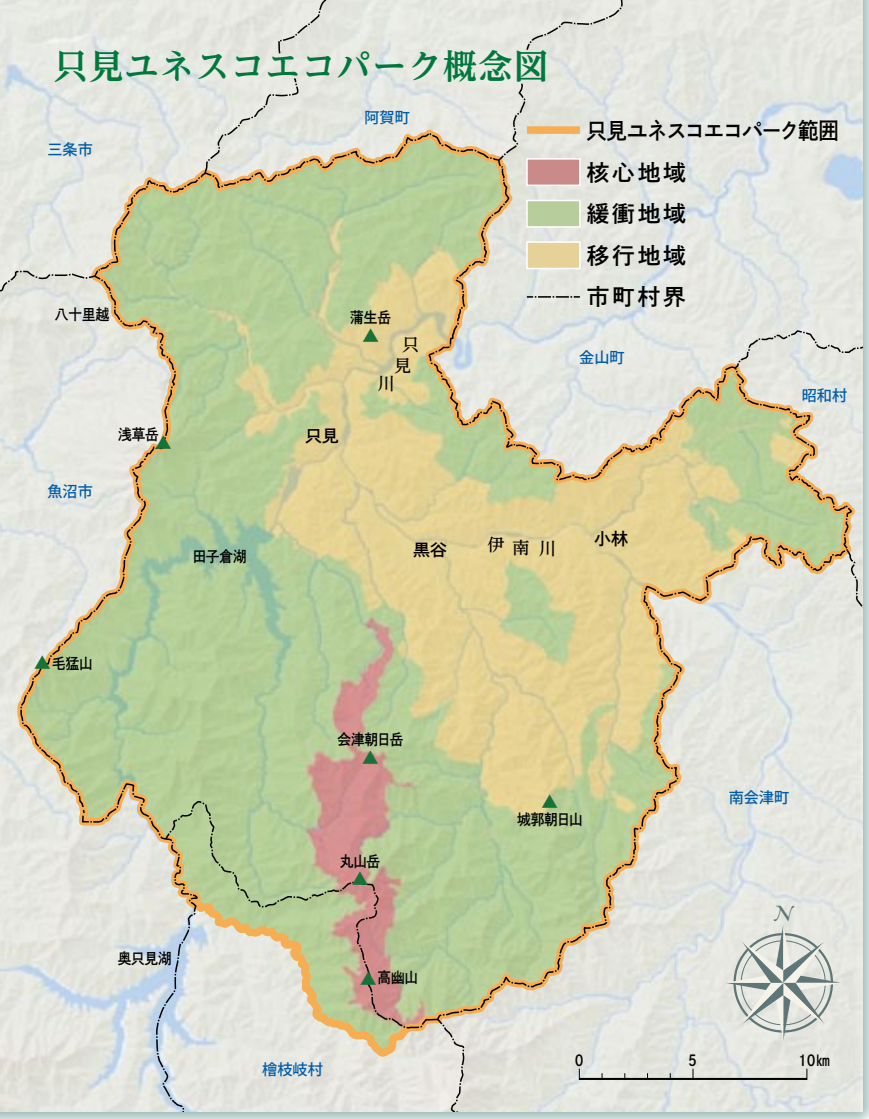
ユネスコエコパーク推進地域シンポジウム開催、町民の理解を深める。

H25年 ユネスコエコパークネットワーク会議、地域シンポジウム開催。ユネスコエコパーク登録申請書を提出、日本ユネスコ国内委員会において国内推薦決定。

H26年 ユネスコMAB計画国際調整理事会において「只見ユネスコエコパーク」の登録が決定。

只見町は希少種の宝庫

日本有数の豪雪地帯である只見町は、雪崩により形成された雪食地形が卓越し、安定した立地に生育するブナ林、河川沿いに発達する水辺林など、5万haもの原生的な自然環境が存在します。そこではイヌワシ、クマタカなどの猛禽類や大型の哺乳類であるツキノワグマやカモシカなどが多数生息し、只見町の生物多様性の豊かさを象徴しています。ヒメサユリ(写真)は生息地の限られた希少種ですが、只見町が国内最大の自生地であるとされています。



ユネスコエコパークとは……「人間社会と自然環境の共生を実践するモデル地域」

ユネスコエコパークは、ユネスコが実施する「人間と生物圏（MAB：Man and the Biosphere）計画」の中心事業である「生物圏保存地域（BR：Biosphere Reserves）」の国内での呼称です。BR制度は、地域の自然環境の保護・保全を図ると同時に、その自然環境や天然資源を持続可能な形で利活用することにより地域の社会経済的な発展をはかる目的で昭和51年に設けられました。現在、世界では119か国631地域、国内では只見を含め7地域が登録されています（平成26年6月現在）。

只見ユネスコエコパークの概要

- **総　面　積：78,032ha**
  只見町の全域と隣接する檜枝岐村の一部
- **核心地域：3,557ha**
  厳重に守るべき貴重な自然環境を有する地域
- **緩衝地域：51,333ha**
  核心地域に準ずる自然環境を有する地域で移行地域から核心地域を守る役割をになう地域
- **移行地域：23,142ha**
  環境に配慮しつつ持続可能な社会経済の発展を目指す地域

❶ 梁取地区「学びの森」（ブナ二次林）

❷

❸

ユネスコエコパーク関連事業

自然環境の保護・保全

身近で自然観察のできる「ただみ観察の森」の整備（写真①）、町内湿原の保護、巨樹・巨木の保護（ナラ枯れ対策）など

地域の自然を活かした地域活性化、産業振興

「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援補助事業（写真②）、ニッコウイワナ再生事業、只見町公認自然ガイドの研修（写真③）、只見モデル林育成事業、伊南川右岸の景観修復事業など

学術調査・研究、人材の育成

「自然首都・只見」学術調査研究助成事業、町内全小中学校のユネスコスクールへの登録と支援（朝日小学校は平成26年11月登録）、自然環境基礎調査など

Tadami Town's Future under the Biosphere Reserve Philosophy

In June of 2014, registration for the "Tadami Biosphere Reserve" was accepted by the International Coordinating Council for the Man and the Biosphere (MAB) in Sweden. In July of 2014, the Tadami Biosphere Reserve Promotion Council, consisting of 24 representatives from Tadami and the surrounding areas, held its first meeting. At the same time, various researchers played observational roles in the Council Support Committee.

After registration as a Biosphere Reserve, Tadami Town established its fundamental philosophy for preservation and sustainable utilization of its pristine natural environment. Moving forward, the town has launched and pledged to continue promoting the beauty of the community and surrounding area based on the designation.

ただみ歳時記
色彩にあふれる春

Tadami Saijiki: The Seasons of Tadami
Spring: The Season of Color

ブナの森が
芽吹きのときを迎える
残雪の上をわたる風がここちよい
うららかな春の一日
あふれる色彩のなかで
しばしときを忘れる

日一日と彩りが変わる裏山

亀岡地区の田植え風景

キバナノアマナ

いたるところに見られるカタクリの群生。（写真右）／只見地区から見晴らす横山の稜線。（写真上）

雪国只見の春は遅く、雪解けの進む４月に本格的な春を迎えます。

日一日と陽射しが強まり、雪解け水が只見川、伊南川にどっと流れ込むようになると、まずは水辺のヤナギの林が黄色に染まり、ブナの芽吹きが尾根をかけ上がります。そして雪解け跡の斜面から次々と花が咲きはじめます。

フクジュソウ、カタクリ、キクザキイチゲ、キタコブシ、オオヤマザクラなどなどが、山に里に咲き競います。まさに百花繚乱の春です。

４月中下旬、田や畑の土が顔を出すと農作業がいっせいにはじまり、人々は野良仕事に精を出します。何もかもが一度に始まる春は忙しい季節でもあります。田植えがおよそ５月下旬。水の入った田んぼにカエルたちの声が鳴り響き、ウグイスやオオルリなど、夏鳥のさえずりが聞こえてきます。

庭先で盛んにゼンマイを採む風景が見られるのもこの頃で、只見の春の風物詩となっています。まだ畑に作物のできないこの季節、山の恵み、山菜をいただき春の到来をよろこぶのです。

山にエゾアジサイがひっそりと咲く頃、季節は夏へと移っていきます。

Spring comes late to the snowy country, Tadami. Real spring comes in April, when the snow finally begins to melt. Day by day, the sunlight shines down more strongly. As the melted snow rushes to the Tadami and Ina rivers, the groves of willow trees along the riverbanks turn yellow, and the beech woods along the edges of the mountain begin to bud. After the thaw, flowers bloom on the sloping hills.

By the end of April, farmers get to work in the rice paddies and fields once the soil's surface is exposed. Rice planting begins around the end of May. You can hear the croaking of frogs in the watery rice paddies, and the singing of the summer birds.

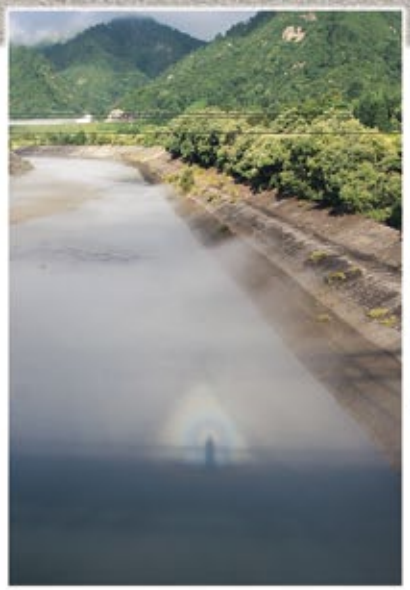
Around this time, farmers tend the Flowering Fern (a vegetable) in their fields. This sight is a Tadami spring tradition that the people enjoy. At the beginning of spring, Tadami citizens delight in the bounty of the mountain, such as wild vegetables, because the crops are not yet ready to be eaten.

As the *Ezo* Hydrangeas begin to bloom on the mountain, the seasons change from spring to summer.

ただみ歳時記
いのち育む夏

Tadami Saijiki: The Seasons of Tadami
Summer: Fostering Life

青空と緑の山々を映し
水面が輝く
すべての命が
躍動する季節
大自然の鼓動を確かめに
多くの旅人が
峠を越える



夏の朝、只見川にかかる橋の上からブロッケン現象をよく観察することができる。(町下橋から)

涼をもとめ各地域で開かれる盆おどり。(只見地区)

八十里越の道沿いに立つブナの巨木は、峠を越える旅人を見守ってきた。(右上)
いく筋もの清流が只見の豊かな水環境をかたちづくる。叶津川木ノ根沢。(右下)

布沢地区、龍泉寺の前庭に咲くヤマユリ
梅雨明けのころ、布沢川流域ではヤマユリが咲き始める
地域の人々は自生のヤマユリをいつくしみ守ってきた。

只見湖畔、只見ダムから望む田子倉ダム
六十里越の雄大な眺望を楽しみに
ツーリングに訪れる人が多い。

山々が緑に覆われ、エゾハルゼミが涼やかな声を響かせる初夏の只見が一年でもっとも輝く季節です。ヒメサユリの可憐なピンクの花、朝夕に聞くアカショウビンの鳴き声、すべての生き物が旺盛に成長し、只見の短い夏を謳歌します。夕闇の訪れとともにあちらこちらの水際でホタルが淡い光を灯すのもこの頃です。渓流にイワナを求め多くの釣り人が訪れ、多くのハイカーがブナの森に憩います。

7月下旬にヤマユリが香り高く咲き始めると、盛夏を迎えます。梅雨明けからお盆までの期間が一年でもっとも気温が高く、連日30度を超える日が続きます。トマト、ナス、トウモロコシやスイカが一気に成長し、食卓をにぎわせるようになります。

お盆は、都会に出ている家族もそろい、しばしのんびりと過ごします。墓を清め、お供えをして盆を迎えます。新盆を迎えた家は、家の前に高灯籠(たかとうろう)をかかげます。

お盆を過ぎると朝夕が急に涼しくなります。学校の新学期が始まり、里の賑わいが引いて、冬野菜の種を蒔き終えると、季節はいつしか秋に移ろいます。

The mountains are carpeted in green, and the Japanese spring Cicadas chirp in their cool voices during summer. This is the best season in Tadami. Pink lilies bloom, and the Ruddy Kingfishers sing in the morning and evening – all living things grow quickly, and enjoy the short summer in Tadami. As dusk gathers, fireflies sparkle in the pale moonlight near water during this season. Many people come to fish Mountain Trout in the mountain streams, and many hikers rest themselves in the beech forests.

In late July, midsummer comes when the mountain lilies begin to fragrantly bloom. Between the end of the rainy season and *Obon*, the temperatures rise to their highest all year. The temperature exceeds 30 degrees Celsius daily. Vegetables, such as tomatoes, eggplants, and corn all grow at once, and they brighten the lunch/dinner table.

During *Obon*, family members come back from big cities to relax in their hometowns for a while. The mornings and evenings become cooler after the holidays. School starts, and the town once again becomes less crowded. As farmers finish sowing the seeds of winter vegetables, the season gradually turns to autumn.

ただみ歳時記
黄金に染まる秋

Tadami Saijiki: The Seasons of Tadami
Autumn: Gold and Glittering

歴史の道、八十里越古道
静寂の森のなかに
かつての往来を偲ばせて
くっきりと残る道すじ
見上げる秋の空に
色づきはじめたブナの葉がゆれる

ブナ林で見つけた秋の恵み。

祭りの日はご馳走を持ち寄り神社に集う。
（宮渕地区、見取神社）

黄金に稔った稲を刈る。（小川地区）

青少年旅行村いこいの森の紅葉。（11月初旬）

只見地区の秋祭り。

9月初旬、町内いっせいに秋まつりが行われ、各集落の神社に幟（のぼり）が立ち並ぶころ、只見に秋が訪れます。穂を孕（はら）んだ稲が次第に頭を垂れ、9月下旬に稲刈りが始まります。

山では、クルミ、クリ、トチなどの木の実やマツタケ、マイタケ、ナメコなどのキノコの収穫時期を迎えます。また、アケビやマタタビのつる、ヒロロなど、冬の手仕事の材料も、この時期に山に入り採集します。この暮らしは、おそらく縄文時代から長く続いてきたもので、裏山の秋の豊かさが只見の厳しい冬を支えてきたと言えるでしょう。

10月中旬、里山にも紅葉が降りてきます。赤銅色を基調に、尾根沿いのタカノツメ、イタヤカエデの黄色、ヤマウルシやヤマモミジの真紅が混じり、山は華やぎます。

11月のある朝、夜半に吹き荒れた風に木々の葉が落ち、高い山の頂が白く変わっています。

人々は里に雪が来る前に、ひと冬を越すための大根、白菜、ネギなどの収穫に追われます。農作業に使った道具や家のまわりをかたづけ、家や庭木の雪囲いをし、漬け物などの保存食をつくり、冬支度に慌ただしい日々を過ごします。

In early September, the whole town participates in the Autumn Festival. When flags, banners, and streamers are displayed on shrine grounds in each community, the real autumn comes to Tadami. Rice-plants laden with grains droop lower in late September. Then the farmers begin to reap the rice.

Nuts and mushrooms are ready to be collected in the mountains. Materials for winter, such as *akebi* (Chocolate Vine) and Japanese Silver-Vine (catnip) are also collected in the mountain during this time of the year. It is likely that this is the kind of lifestyle Tadami people have led since the *Jomon* Period. It could be said that the abundance of autumnal produce from the mountain has saved many lives during Tadami's harsh winter.

In the mountains and villages, leaves change colors in mid-October. The bronze Maple Trees and Japanese-Maples are capped in yellow and crimson. The mountain comes alive with these beautiful colors.

One morning in November, the leaves begin to fall, blown by the midnight wind. The tops of the mountains are covered in snow, and turn white. Before it begins to snow in town, residents get busy harvesting vegetables such as Japanese radishes, Chinese cabbage, and leeks, which will help them to survive the winter. They are also busy cleaning their farming tools and houses, covering the houses and trees in the garden for protection against snow, and preserving food in preparation for winter.

ただみ歳時記
こころ耕す冬

Tadami Saijiki: The Seasons of Tadami
Winter: Hibernating Hearts

吹雪の去った翌朝
日の出とともに
凍りついた空気が動きはじめる
伊南川の流れに沿い
霧が流れていく
厳しくも美しい
冬の一日のはじまり

静寂に包まれる冬のブナ林。(浅草岳山ろく、沼ノ平)

雪まつりで早乙女踊りを披露する小林早乙女保存会の皆さん(写真上)とゲストのライブステージ。(写真下)

厳冬期のつかの間の晴天。(黒沢地区)

大雪像の上から冬の夜空に打ち上げられる花火。
（平成25年、第41回只見ふるさとの雪まつり）

人も自然も雪に支配される冬が、もっとも只見らしい季節と言えるでしょう。例年、12月中旬から下旬、寒波の訪れとともにどっと降る雪が根雪となり、積雪を増してゆきます。2月頃、積雪のピークを迎え、3メートルを超えることもあります。

雪に降り込められる日々のなかで、人々は楽しみを見つけ、教養を高め、暮らしに工夫を凝らしてきました。冬の寒さや雪を利用した凍み餅や凍みダイコン作り、マタタビやヒロロ細工などの手仕事、早乙女踊りなどの伝統芸能も冬のあいだに受け継がれてきたものです。

只見の文化は、雪と暮らす長い冬のあいだに培われてきたと言えます。

2月、冬いちばんの楽しみ「只見ふるさとの雪まつり」が開催されます。郷土料理や民芸品の屋台が立ち並ぶなかで伝統芸能やライブショー、雪中神輿やゲームなど多彩なイベントが繰り広げられます。冬の夜空に打ち上げられる花火は圧巻で、県内外から多くの人が訪れる只見町最大のイベントです。

雪まつりが終わるころには、日脚が延びて春の息吹が感じられるようになり、深い雪のなかで人々は本格的な春の訪れを待ちわびます。

Of all the seasons in Tadami, winter is the most impressive; residents and nature alike have been heavily influenced by snow. Every year, starting in the middle of December, a cold wave brings the first heavy snow. The snow usually remains unmelted, and more snow piles on top of it. Snowfall comes to a peak in February, and it sometimes piles up over 3 meters high.

It can be said that the culture of Tadami is based on the snowy routine of day-to-day life during the long winters. Some of this snow-culture includes: *shimi-mochi*(frozen rice-cakes) and *shimi-daikon* (frozen white radish) made by utilizing the snow and cold temperatures, handcrafts made from Japanese Silver vine (catnip) and sedge, and traditional dances such as the *Saotome Odori*.

The Tadami Snow Festival is held every February. Local cuisine and folk-art stalls line the streets, and various events are held at the festival. It is breathtaking to see the fireworks in the winter sky. The snow festival is the largest event in Tadami Town. After the festival, the days begin to grow longer, and the first signs of spring come. Everyone waits for spring to bloom forth from the deep snow.

只見町、町下野球場で行われたいわき市のチームとの練習試合。ベンチで見守る監督。

わたしたちのただみ人

只見高校野球部を率いて11年

只見高等学校 野球部監督 **長谷川清之**さん
Hasegawa Seishi

高校のグランドで守備練習の指導をする長谷川監督。

只見高校の生徒は、見知らぬ人にでもだれもがあいさつをしてくれますが、ひときわ声の大きいのが野球部の部員たち。実に礼儀正しい部員を率いるのは、長谷川清之さんです。只見町に生まれ育ち、高校は名門「学法石川」に進み、エースとして夏の甲子園に出場。その後、社会人野球で活躍ののち帰郷します。数年後、OB会などの推薦を受け野球部のコーチとなり、3年後に監督に就任、11年がたちました。

高校の向かいにある製材所に勤めるかたわら、勤め先の理解もあり、夕方少し早めに仕事を終え、部員の待つグラウンドに通う毎日です。週末には、他校との練習試合を年間60ゲームほども組み、試合での実戦力を磨きます。8月の夏休みにはダブルヘッダーを連続5日間こなしました。野球部の休みは、盆と正月だけ。まさに一年を通して部員とともにある生活です。

平成26年度の部員は22人。そのうち「山村教育留学制度」を利用して県内外から11人の生徒が「長谷川監督のもとで野球をしたい」という思いで集まりました。生徒数が少なく高校の存続さえ危ぶまれる今日、野球部の存在は大きいと言えます。

「野球ができるだけじゃだめだ。野球を通じて人づくりをするんだ」という監督に、部員はもとより、保護者や地域の方からの信頼は厚く、その情熱的な指導に対し保護者会、OB会なども支援を続けてきました。

現在までの夏の大会の成績は、県内16強入りがベストです。野球部の目標はと聞くと、「まあ、ベスト8だけど、やっぱり甲子園。目標は大きくなくちゃね」という答えが返ってきました。

Coach of the Tadami High School Baseball Club for 11 Years
A Coach Deeply Respected By His Players

The People of Tadami

冬に開かれる講習会の様子。

わたしたち たたみ人

またたび細工の継承に立ち上がった

「またたび屋」代表　三瓶こずえさん
Sanbe Kozue

「またたび屋」のメンバーが揃えば、またたび細工の話はつきない。叶津番所で（右から二人目がこずえさん）。

生まれも育ちも叶津中ノ平のこずえさんは、高校卒業後東京で就職しましたが、体調のすぐれない母から叶津番所の管理を受け継ぐため、平成21年に帰郷しました。

自然と寄り添う只見町の暮らしをあたりまえに受け止めてきたこずえさんは、古くから伝わる文化や技術に興味があったといいます。「またたび屋」を立ち上げる前は、アケビのつるを使ったカゴ編みを習ってきました。

そして平成23年の暮れに「またたび屋」が設立されます。明和・朝日・只見の各地区ごとにつる細工の講習会はあったものの、またたび細工を学べる場所はありませんでした。今、技術を受け継がなくては、またたび細工の伝統が断たれてしまうとの思いで、20人ほどのメンバーが集いました。

講習会は、1月から3月までの週に2回。晩秋のつるの採集から雪どけまでが、またたび細工のシーズンです。町内の名人を師匠に、冬の午後を気のあった仲間が集まり、和気あいあいと過ごす時間がとても大切だといいます。

技術者として独り立ちできるまでを視野に、今年も講習会を開催の予定です。講習場所の確保、活動資金など課題は多いですが、おだやかな人がらながら芯の強いこずえさんを中心に、「またたび屋」の活動が今年もまた始まります。

The People of Tadami
Traditional Craft - *Matatabi* (Japanese Silver Vine (Catnip)) Crafts
"Matatabi-Ya" – A Group Passing Down Traditional Techniques

小林区内を舞い込む夜。打ち出しの区長さんの家で
左は神楽を演じる晋太郎さん、右は早乙女踊り。

わたしたち「ただみ人」

小林早乙女踊りの若き後継者

獅子役　舟木晋太郎さん　Funaki Shintaro
踊り子　佐藤雅幸さん　Sato Masayuki

４００年の歴史をもつとされる小林早乙女踊りは、東北地方に伝わる田植え踊りのひとつです。かつては伊南川流域で広く行われていましたが、集落をあげて行っているところは数えるほどになりました。

昭和35年に結成された小林早乙女保存会は、小林区民全員が会員です。保存会では、若手を育成し、この2，3年で大きくメンバーが入れ替わりました。舟木晋太郎さんは、家業の跡継ぎとしてUターンののち、踊り子を1年、獅子を5年つとめています。

仕事を終えて近くの店でメンバーがよく集まる
左から晋太郎さん、角田誠さん、雅幸さん。
誠さんは同世代ながら道化とひょっとこを演じてすでに11年のベテラン。

農協に勤める佐藤雅幸さんは、踊り子ひと筋に6年。二人とも三十代半ばの若手です。

かつては旧正月14日の晩から翌朝までかけ全戸を舞い込んでいましたが、現在は、2月の第一土曜日に7、8軒をまわっています。小林の早乙女踊りは、踊り子、道化、太鼓、笛、唄からなり、付き物として演じられる神楽は、獅子とひょっとこ、そして三味線、チャンカラ（鉦）が加わります。

早乙女踊りを小学生の頃から学校でも習い親しんでいた二人は、あまり苦労もなく踊り子になれたようです。そして晋太郎さんは、2年目に獅子役を志願し、前かぶり（獅子頭）をつとめています。

集落をまわる当日、夕刻5時に「打ち出し」、8時から9時に最後の家をまわり「ぶっとめ」となります。その晩は無礼講で、灯りの見える家なら何時でも上がり込み飲み食いできるそうです。二人ともその夜が最高に楽しいと言います。

集落をあげての早乙女踊りの伝統が、若者を引き込み、そして地域を元気づけています。

中央右が菊地梓之さん。

わたしたち ただみ人

福祉の現場で輝く若い力

作業療法士 **飯島小百合**さん Iijima Sayuri

作業療法士 **菊地梓之**さん Kikuchi Shino

二人は作業療法士として町の保健福祉課に所属し、主に只見町介護老人保健施設「こぶし苑」で利用者の方々のリハビリテーションを行っています。また、町の保健師や栄養士と一緒に介護予防や健康づくりの活動も行っています。

作業療法士とは、心や体の病気などで生活のしづらさを感じている方々が、リハビリテーションを通して、その人らしい生活を送れるようにお手伝いする職種です。

飯島小百合さん　こぶし苑で開かれた「こぶしよってけやれ祭り」会場で。（写真上ともに）

飯島さんは群馬県、菊地さんは宮城県出身で、只見に来て4年目になります。二人が只見町へ就職を決めたのは、大学で行われた就職説明会で、先輩作業療法士の長谷部真奈美さんから只見町でのリハビリテーションについて聞いたことがきっかけでした。当時、作業療法について学んでいた二人は、只見町ならではの作業を用いたリハビリテーションに、とても魅力を感じたそうです。

4年目の現在、日々の仕事は悩むことも多いですが、利用者の方々や関わらせて頂いた町の方々の笑顔がみられた瞬間は、何より嬉しい時だと言います。

名前さえ知らなかった只見町での生活を通して様々な方と出会い、人の温かさや人とのつながりの大切さを日々感じているとのことでした。そして季節の移ろいを感じることのできる只見の自然に触れることが、楽しみだそうです。これからも、仕事も自分達の生活も楽しむことを忘れずに、日々過ごしていきたいと話します。

The People of Tadami

Occupational Therapists Appointed to Tadami Town
Two Young People who are Favorites with the Elderly

中世より繋がるまちのかたち

Tadami Town: A History Established during the Middle Ages

窪田遺跡出土の土器
弥生時代の再葬墓の出土状況を再現している。（会津只見考古館）

只見地域の歴史は、蒲生・塩沢地区から発見された石器により旧石器時代までさかのぼります。そして縄文時代の遺跡が26か所、弥生時代の遺跡が7か所発見されています。なかでも、大倉地区の窪田遺跡は、この地域では希少な再葬墓が発掘され、県指定の史跡となっています。

古墳時代から平安時代にかけての史料は非常に少なく、空白の期間と言えます。鎌倉時代、只見地域は伊北郷と呼ばれ、山内氏がその後400年にわたり支配しました。その時代に構築された城館跡がおおよその集落ごとに24か所も発見されています。

江戸時代、只見地域は南山御蔵入領の一部となり、幕府の直接支配と会津藩預かり支配が繰り返されました。19世紀初頭に編さんされた『新編会津風土記』には、当時の村の姿があらわされ、現在の町のかたちがほぼ出来上がっていたことが読み取れます。

只見地域でも戦闘が繰り広げられた戊辰戦争の終結とともに時代は明治へと移ります。明治

明治初年からの只見町の主なできごと

1868（慶応4・明治元） 戊辰戦争始まる。長岡藩避難民2万人余が八十里越より只見入り止宿。滝原、只見、叶津において戦闘
8・5 会津藩野尻代官丹羽族、長岡藩避難民に対する食料調達不首尾から自刃
8・16 長岡藩家老河井継之助、塩沢にて死去
1871（明治4） 廃藩置県が行われ、組名が廃止され若松県を57区に分け、只見地方は第44区、第45区、第46区に編入
1872（明治5） 大倉に郵便取扱所開局
1873（明治6） 大区小区制を実施。只見地方は若松県第1大区26小区、27小区、28小区に編入
只見小学校、梁取小学校、黒谷小学校が相次ぎ開校
1876（明治9） 若松県・磐前県・福島県が合併し福島県となる。大区小区制を廃止、福島県は26区会所制となり只見地方は17区会所に編入
1881（明治14） 八十里越中道が完成
1885（明治18） 常盤橋、大倉橋、檜戸橋、万才橋が架橋
1887（明治20） 南光社設立。その後各地に製糸場、揚返場が開設され蚕糸業の隆盛をみる
1889（明治22） 町村制施行により伊北村・朝日村・小梁村・布沢村・八幡村が誕生
1894（明治27） 八十里越新道が完成
1902（明治35） 台風による大水害。水害と気候不順により米作47％減の凶作
1911（明治44） 只見郵便局・小林郵便局が電信業務を開始
1922（大正11） 黒谷川水力電気株式会社設立
（1920）により、只見―梁取間に電灯がつく
1923（大正12） 只見自動車商会設立、横田―只見―小林に乗合自動車の運行開始

から大正、戦前にかけ只見地域の産業の中心は養蚕、製糸産業でした。「只見蚕」「十島桑」という優良品種を生み出し、農家の経済を支えたのです。

戦後、只見地域に大きな変化をもたらしたのは、ダム開発でした。昭和28年に着工、35年に竣工された田子倉ダムの建設時には、人口が1万5千人にも達しました。

昭和34年、現在の只見町が誕生します。水源の町、電源開発の地として脚光をあびた町は、次第に過疎・高齢化が進み、その問題に直面するようになります。しかし、営々と築いてきた歴史・文化を失うことなく次の世代につなげるために、新たな時代を切り拓こうとしています。

The history of the Tadami territories goes back to the Paleolithic Period. 26 sites from the *Jomon* Period and 7 from the *Yayoi* Period have been discovered. Notably, the Kubota Ruins were designated a Fukushima Prefecture Historical Site, due to the discovery of rare, reburial graves found in the Ruins. During the *Kamakura* Period, the Tadami territories were called "*Ihou-gou*". The Yamauchi Clan ruled over the area for 400 years. 24 castle and home sites from that period have been discovered. In the *Shinpen Aizu Fu-doki* ("Revised Aizu Topography"), which was compiled in the beginning of the 19th century, an ancient town is depicted. This map also indicates that most of the present territory known as Tadami Town was present. Between 1870 and 1940, The Tadami territory was supported largely by the silk-farming and manufacturing industry. After World War II, the construction of dams brought drastic change the area. The population had reached 15,000 people at the time of Tagokura Dam construction.

In 1959, the modern-day Tadami Town was established. After the construction of the dam, Tadami's golden age gradually came to an end as Tadami faced the problem of advancing depopulation and aging. However, the town is trying to carve out a new era in history and culture, connecting new generations to the ancestors of Tadami.

1934（昭和9） 只見郵便局、黒谷郵便局で電話交換業務を開始
豪雪による融雪の遅れ、低温・日照不足により大凶作となり平年作の2割ほどの収穫
1937（昭和12） 山口―只見―大塩に乗合バスの運行開始
1940（昭和15） 小梁村・布沢村・八幡村が合併、明和村となる
1945（昭和20） 終戦。満州事変～太平洋戦争を通じ只見地方からの従軍者1301人、うち戦没者は291人
1946（昭和21） 教育基本法制定。国民学校が小学校と改称、伊北・朝日・明和中学校が各小学校に併設
第2次農地改革開始（1950完了）
1947（昭和22） 日本発送電株式会社より「只見川筋水力開発計画概要」発表
1948（昭和23） 福島県立南会西部高等学校分校が伊北村・朝日村の各中学校に併設
1949（昭和24） 田子倉ダム建設のため地質調査開始。田子倉に移住反対対策協議会が発足
1952（昭和27） 伊北村を只見村と改称
1953（昭和28） 田子倉ダムの建設工事着工
1955（昭和30） 7・20只見村、明和村が合併、只見村となる
1956（昭和31） 田子倉ダム建設による補償交渉が妥結
1959（昭和34） 8・1只見村、朝日村が合併、只見町となり町制を施行
1960（昭和35） 朝日国保診療所が長浜に開所
只見町商工会が設立
田子倉ダム・田子倉発電所建設事業が完成
1961（昭和36） 滝ダム、滝発電所が完成
田子倉発電所の総出力が38万kWとなり日本最大の水力発電所となる（当時）
1963（昭和38） 只見・朝日・明和の各農業協同組合が合併し只見町農業協同組合となる
1964（昭和39） 南会津高等学校只見分校が独立、県立只見高等学校となる
1968（昭和43） 山村地域の産業基盤と生活環境の整備を目的に山村振興対策事業始まる
1971（昭和46） 只見―大白川駅間が開通し国鉄只見線として全通、営業運転開始。10日間にわたり「只見線竣工全通記念祝賀行事」開催
1973（昭和48） 第1回ふるさとの雪まつり開催
越後三山只見国定公園が誕生
只見町ほか3か村衛生処理組合設立、ゴミ収集開始
1985（昭和60） 窪田遺跡を2年間にわたり発掘調査
1989（平成元） 只見ダム完成、営業運転開始
只見町史編さん事業始まる
老人保健施設「こぶし苑」を長浜に開所
1991（平成3） 8・10会津只見考古館開館
1993（平成5） 8・8河井継之助記念館開館
1994（平成6） 千葉県柏市とふるさと交流都市提携
1996（平成8） 保健福祉センター「あさひヶ丘」を長浜に開所
2002（平成14） 只見町山村教育留学制度発足
2006（平成18） 「雪んこタクシー」運行開始
2007（平成19） 只見、朝日、明和中学校が統合され新生只見中学校を黒谷に開校
2009（平成21） 8・1町制施行50周年記念式典開催
10・3ただみ・ブナと川のミュージアム開館
2011（平成23） 3・11東日本大震災、福島第一原子力発電所事故発生。縁故者など約200人が町内へ避難、以後風評被害続く
7・29新潟・福島豪雨災害発生。全町民に避難勧告、甚大な被害、只見線不通
2014（平成26） 只見町がユネスコエコパークに登録。只見ユネスコエコパーク推進協議会発足

只見町が誇る文化財

Tadami's Pride: Cultural Assets

成法寺観音堂　古くからこの地は仏地と呼ばれ、聖なる地であった。500年の時を経てなお端正な姿を今に伝え、当時の文化水準の高さを伺わせる。

只見町の文化財として、国指定重要文化財3件、県指定7件、町指定14件が登録されています。国指定重要文化財として、室町時代後期に建てられたとされる成法寺観音堂と、農家住宅として県内で最も古い旧五十嵐家住宅があります。成法寺観音堂に安置される木造聖観音菩薩坐像（県指定重要文化財）は、美しい姿をとどめ700年の歴史を刻みます。

古文書も多く残され、八十里越を通じ越後との交易の口留番所であった旧長谷部家住宅（県指定重要文化財）に残された長谷部家文書（県指定重要文化財）は、総数3475点に及びます。

民俗文化財としては、只見方式として注目される民具収集事業の集大成として平成15年に国の有形重要民俗文化財に指定された「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」

旧長谷部家住宅　江戸時代後期の建築とされる旧長谷部家住宅は、八十里越の口留番所として使われた。現在では内部を見学することができ、会員制の宿泊所としても利用される。

旧五十嵐家住宅　享保3年（1718）に建築された旧五十嵐家住宅は、只見地区より叶津地区に移築の際に解体修理され、もとの姿に修復された。

（2333点）があげられます。各種の生産用具のほかに仕事着416点が含まれることが特徴です。そして平成元年から本格的に調査・収集が進められた民具は、現在1万点を超え、町では本格的な民具収蔵庫の建設を検討しているところです。

「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」に含まれる仕事着の一部
平成元年から始められた民具整理事業は、民具をつくり使った町民自らが民具の整理、カードの記入を行った。この方式は、のちに只見方式と呼ばれ高い評価を得る。まさに町民自らがつくりあげた文化財と言える。

只見町の文化財一覧

種別	名　称	指定区分	所在地
建造物	成法寺観音堂	国指定	梁取
	旧五十嵐家住宅	国指定	叶津
	旧長谷部家住宅	県指定	叶津
彫刻	木造聖観音菩薩坐像	県指定	梁取
	銅造阿弥陀如来座像	町指定	黒谷
	銅造釈迦如来座像	町指定	黒谷
	木造阿弥陀如来座像	町指定	黒谷
工芸品	五十嵐家旧蔵鰐口	県指定	只見
	刺繍阿弥陀三尊種子懸幅	町指定	黒谷
古文書	長谷部家文書	県指定	叶津
	山内家の伊達政宗知行安堵朱印状	町指定	梁取
	修験龍蔵院の聖教典籍文書類（505点）	町指定	楢戸
史跡	窪田遺跡	県指定	大倉
	河井継之助の墓	町指定	塩沢
	布沢木地師集落跡	町指定	布沢
民俗文化財	会津只見の生産用具と仕事着コレクション	国指定	黒谷
	小林・梁取の早乙女踊りと神楽	県指定	小林・梁取
	成法寺蔵「絵馬」	町指定	梁取
	塩沢の製塩図および説明書	町指定	塩沢
天然記念物	比良林のサラサドウダン	県指定	大倉
	大曾根湿原	町指定	梁取
	アカミノアブラチャン	町指定	長浜
	石伏旧若宮八幡神社の大クリ	町指定	石伏
	黒谷川の大コブシ	町指定	黒谷
	ニホンカモシカ	国天然記念物	全域
	イヌワシ	国天然記念物	全域
	オジロワシ	国天然記念物	全域
	ヤマネ	国天然記念物	全域
福島県縁の文化財	比良林のサラサドウダン	県指定	大倉
	三石神社の森	県指定	只見

長谷部家文書　八十里越・鉱山・戊辰戦争などに関する近世の史料。

There are several registered assets present in Tadami: 3 National “Important Cultural Properties” assets, 7 designated by Fukushima Prefecture, and 14 designated by the town. Joho Temple’s Kannon Hall and the former residence of the Igarashi Family are both designated as National Important Cultural Properties. A wooden statue of the Goddess of Mercy, *Sei Kannon Bosatsu zazo* (an “Important Cultural Property” of Fukushima), which rests inside the Joho Temple, is over seven-hundred years old.

Many ancient documents are also stored in the town. 3,475 of the Hasebe Family’s documents (a Prefectural “Important Cultural Property”) are preserved in the former residence of the Hasegawa Family (a Prefectural “Important Cultural Property”).

The town is home to the “Folk-cultural Property” called “The Collection of Production Tools and Work Clothes from Aizu Tadami.” This collection is also designated as a “National Significant Tangible Folk Cultural Asset”. The contents of the collection include 416 items of work-clothing, and craft tools. Currently, construction of a reproduction warehouse for the collection is under consideration in Tadami.

伝え残していきたいもの

Traditions to Pass Down to Future Generations

南会津町界、鹿島神社の御遷宮祭で奉納された梁取太々神楽。
神楽は獅子、三味線、太鼓、鉦(かね)、笛からなる。
左は、御遷宮のときにのみ奉納されるおかめの舞。

平成26年は、南会津町界の鹿島神社の20年に一度の御遷宮にあたり、梁取太々神楽が奉納されました。梁取太々神楽は、現在では「雪まつり」などのステージで演じる機会が多いですが、本来この御遷宮時に奉納するためのものです。獅子神楽と余興芸（鍾馗舞、おかめ）からなり、その起源は天養元年（１１４４）とされます。早乙女踊りは毎年旧正月の晩に家々をまわり踊られる芸能で、４００年の歴史をもつと言われます。

平成18年に「小林・梁取の早乙女踊りと神楽」として県指定の無形民俗文化財となり、梁取、小林とも保存会が後進の育成につとめています。

只見町に残る特異なものとして、巻物文化があります。現在でも番匠（大工）、屋根屋などの職人は、一人前になった証しとして、親方から巻物を授かります。家を新築する際の建前の儀式には、職人が巻物を開き祝詞をあげる光景が見られます。この職人巻物のほかにも、小笠原礼法を印した小笠原流巻物など、只見町には数々の巻物が残されています。

かつては外仕事のできない冬期間に多くの生活用具や衣類を手づくりしていました。その技術の多くは失われつつありますが、山野の植物を利用した編み組み細工の技術は受け継がれています。マタタビ、アケビ、ヒロロ（ミヤマカンスゲ）、ブドウ、クルミ等を使ったカゴやザルなどを編む技術が継承され、町内各地域で

巻物を開き建前の儀式を行う番匠。（舘ノ川地区）

ヒロロ細工　ヒロロ（ミヤマカンスゲ）の採集からはじまり、縄より、編み込みに至る作業は、繊細で根気のいる作業がつづく。

保存会を中心に講習会が開かれるようになりました。近年では、工芸品としての価値も認められるようになり、手づくりの技術を学びたいと、若い受講者も増えています。

山川の恵みの豊かな只見町は、食文化もまた独特のものがあります。その代表的なものに「スシ（飯鮓）」があります。アカハラ（ウグイ）と塩とご飯でつくるナレズシの一種です。6月ころに仕込み、正月にふたを取り食べます。また、大晦日や祝いの席に欠かせないごちそうが、「オヒラ（お平）」です。これもアカハラの串魚を使う煮物です。そのほか、麦芽ともち米だけでつくる「あめ」があります。あめができると隣近所の女性を呼び合い「あめよばれ」を楽しみます。長い冬を越すための昔からの知恵です。

スシ　只見町のスシは魚とともにご飯も食べるのが特徴。かつてはイワナやカジカでつくられていた。その起源は古い。

オヒラ　アカハラ、昆布、長いも、ごぼう、揚げ豆腐、舞茸の入ったオヒラは、ハレの日にはかかせないごちそう。

Yanadori Kagura is a dance dedicated to the reconstruction of a shrine. It is believed to have originated in 1144. *Saotome Odori* is a traditional folk dance, where the people dance around the neighborhood on the evening of the lunar New Year every year. It is said that this dance has a four-hundred year history. In 2006, it was designated an "Intangible Folk Cultural Asset by Prefecture", under the title "*Kobayashi/Yanadori's Saotome Odori*, and *Kagura*". A cultural preservation committee is currently training young dancers.

The art of "Scroll Culture" is peculiar to Tadami as well. Even today, artisans such as carpenters still receive a scroll from their master as proof of becoming a qualified craftsman. In addition to this type of scroll, there are other kinds of achievement scrolls, such as the "Ogasawara-school" Scroll. In the past, when farmers could not work outside because of snow, much of the daily clothing and supplies were made by hand during the winter. This was when the techniques for weaving baskets and colanders with local mountain plants were inherited. These crafts have been recognized for their high quality as folk art in recent years.

Tadami Town has its own unique food culture as well. Tadami's food culture includes fermented sushi, and *ohira*, which is a must at celebrations. Candy made from malt and glutinous rice is a popular food as well.

Peaceful Community Living

地域のつながりのなかで こころ豊かに暮らす

只見町敬老会は、毎年3地区ごとに開かれる。早くから準備にたずさわる婦人会の方々の尽力で、子どもたちや婦人会の方のアトラクションなど、楽しいひとときを過ごす。

保健・福祉・医療が一体となったまちづくり

町のほぼ中央に位置する朝日地区長浜に保健・福祉の行政部門を置き、国保朝日診療所をはじめ関連機関や施設の同一エリア化を図り、効果的に情報を共有して住民一人ひとりにきめ細やかな対応ができる体制を整えています。

また、安心して子どもを産み育てられる保育環境、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるような制度や施設等の整備を進めるとともに、サービスを安定して行うための専門職の確保や人材育成も行っています。

安心して子どもを産み育てるために

●保育所…町内3地区にあり、待機児童はゼロ。保護者の急病や用事等での一時保育もあります。

●カルガモクラブ…0歳～保育所入所前の幼児とその母親を対象に、民生児童委員の協力により遠足、運動会、クリスマス会等の活動を行っています。

●保健師や栄養士による「乳児健康相談」「あそびの教室」を開催。

●子ども教室…放課後の小学生を各地区振興センターで預り、仕事帰りの家族の迎えがあるまで登録スタッフがおやつや宿題、遊びや体験活動のめんどうをみます。

●子育てひろば…専門的知識と指導

明和保育所の運動会　地域の人々が見守るなかで、のびのびと育つ子どもたち。

「福祉乗合いきいきバス」　会津ただみ振興公社が運営主体となり、介助がないと出かけることの難しい方を対象に、主に「こぶし苑」「じねぇんと」など福祉施設への送迎を行う。

技術を持つ指導者による運動、生活習慣、学習習慣が身につく活動をしています。

●保育料の低減、高校卒業までの医療費無料化や、妊婦健診無料券支給。

保健師による妊産婦・新生児・未熟児家庭訪問や電話相談、乳幼児健診・乳児健康相談・保健室解放等を行っています。

只見町の保健･医療･福祉の拠点、保健福祉センター「あさひヶ丘」（写真奥）と国保朝日診療所（写真右手前）。

介護老人保健施設「こぶし苑」

只見町の保健・医療・福祉ネットワーク

長浜地区

保健福祉センターあさひヶ丘
（只見町保健福祉課）
- **在宅介護支援センター**
- **地域包括支援センター**
- **高齢者生活福祉センター**（デイサービス・居住棟）

国民健康保険朝日診療所
内科・外科・歯科、病床数19床、救急対応
- **訪問看護ステーション**
- **訪問診療**（在宅寝たきり）

南会津地方広域消防署只見出張所（高規格救急車）
ドクターヘリ（年間10人ほど搬送）

介護老人保健施設「こぶし苑」
リハビリテーション等の支援
入所者定員50名、通所リハビリ10名

只見町社会福祉協議会
訪問介護（ホームヘルパー）の派遣等

社会福祉活動センター「やまびこ」
地域活動支援センター「じねぇんと」
障がい者への活動の機会提供、支援、相談

特別養護老人ホーム「只見ホーム」（50床）

小規模特別養護老人ホーム（平成27年開所予定）

只見地区 **桜の丘みらい**
デイサービス・小規模多機能型居宅介護

小林地区 **グループホーム「和の里」**
認知症対応型共同生活介護施設　利用定員18名

The Health and Welfare local government departments are located in the Nagahama, Asahi District. Nagahama is located in the center of town. The town is attempting to relocate the Kokuho Asahi Clinic and local organizations offices/facilities to the same area, so that information can be shared effectively among the organizations. The town is also adjusting the organization of public facilities to better suit all Tadami residents.

Furthermore, the childcare system has been improved, so that raising children is easier. At the same time, the systems and facilities which support the elderly have also been redesigned, so that they may continue to live in their beloved hometown.

教　育
Education

まちづくりは人づくりから豊かな環境と充実した制度

Town Planning through Increasing Human Resources:
Creating a Nurturing Environment and Sturdy Institutions

只見中学校の給食風景
町内の小中学校では、ランチルームで全校生徒・教職員がそろい給食をいただく。

只見町では教育に特に力を注いでいます。豊かな自然環境と地域のつながりのなかで、町の子どもたちが充実した教育を受けられるように、学校・家庭・地域が連携するとともに、さまざまな制度と施策を整えています。

町内には、町立の小学校3校―只見小学校、朝日小学校、明和小学校と、中学校1校―只見中学校、高等学校1校―福島県立只見高等学校があります。

地域で育てる

豊かな人間性と生きる力を育むため、子どもと地域住民の関わる機会を積極的につくり、地域の自然や文化を理解するための学習を取り入れています。

福島県立只見高等学校

生徒一人ひとりにきめ細やかな学習指導、資格取得や進路実現のためのバックアップが行われています。

只見町山村教育留学制度

町外から只見高校へ進学する生徒を留学生に認定し、町立の寮（奥会津学習センター）や下宿を提供する制度です（平成26年度は36名）。寮費の負担は食費のみで、町の援助を受けながら寮や下宿で生活し、只見高校に通学します。首都圏や近隣町村から留学した生徒が只見町を第二のふるさととして巣立っています。

奥会津学習センターの共同学習スペースで
自習する寮生。

地域おこし協力隊

奥会津・只見教育振興協力隊（総務

只見町小学校体育交歓会、女子800m走　町内３小学校の５，６年生が集まり、他校児童との親睦を深め、日頃の鍛錬の成果を確認し、記録への挑戦を行う。体育交歓会は毎年秋に行われ、平成26年度で44回を数える。

省の地域おこし協力隊）２名を教育委員会に配属し、奥会津学習センターを拠点にして只見高校のＰＲや山村教育留学生の募集、都市との交流事業などを行っています。

生涯学習

魅力ある生涯学習社会を構築するため、住民ニーズや地域課題に合った各種学級や講座等を実施しています。また、生涯を通じて気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを進めています。

- 只見学…地域資源（自然・民俗・歴史・産業・文化）を学習対象に教育委員会、学校、地域が連携して「只見学」として推進しています。

地産地消と食育をすすめる
只見町学校給食センター

日本で2番目に建設されたオール電化施設の只見町学校給食センターで町内の全小中学校の給食378食（平成26年現在）をつくっています。食材の放射線測定を徹底して行い、地場産物を積極的に活用し、地域の食文化を取り入れた手作り給食を実施しています。また、食育にも力を注ぎ、栄養教諭を中心に年齢に応じた目標を掲げ、継続的な指導を行っています。

Tadami is pouring much of its effort into education. Local environmental communities, schools, households, and the public have cooperated in running various programs and policies so that the children receive a good education.

In town, there are 3 municipal elementary schools (Tadami, Asahi, and Meiwa Elementary Schools), 1 junior high school (Tadami Junior High School), and the Fukushima Prefectural Tadami High School.

明和小学校学習発表会　父兄や地域の方々が集まり子どもたちの成長ぶりを見守る。

人、自然、資源 そして環境を活かして

Making the Most of Man Power, Nature, Resources and the Environment

大型機械を使っての稲刈り
大倉地区の有限会社さんべ農園は、夏秋トマト110a（約2万本）、稲18haを耕作する農業法人。南会津町の酒造会社との提携で、酒米「夢の香」を作付けるなど、意欲的な営農をすすめている。

基幹産業は農業

只見町の農業は、中山間地域でまとまった農地がとりにくく、冬期は雪に閉ざされるなどのハンディはありますが、古来、山の幸、川の幸をたくみに取り入れながら農業を中心に生活を成り立たせてきました。現在、農業の中心となるのは米ですが、パイプハウスを使った夏秋トマトが、米と並ぶ出荷額となっています。

このトマトは登録商標「南郷トマト」として、南会津町、只見町、下郷町の産地指定のブランドを確立し、高い評価を得ています。只見町ではJA会津みなみに出荷する農業者が24名（平成26年）、出荷量746トン、出荷額1億8千万（平成25年）となっています。ほかには、アスパラガス栽培や花卉（かき）栽培も重点振興作物として取り組まれ、花卉栽培については、冷涼な地域の特性を活かしたリンドウの栽培が中心です。

高品質、高食味の米をはじめ、山菜・野菜を含めたブランド化、また環境にやさしいエコファーマー・有機農業の取り組みなどが今後の町の課題であり、農林業の公益的機能を維持するためにも、農林業後継者を育成し、誇りの持てる農林業の確立が必要です。

雇用を生む誘致企業

町では、いち早く平成18年に全町に光ファイバケーブルを敷設し、高

南郷トマトの収穫
夏から秋にかけてほぼ毎日の出荷が続く。

リンドウの収穫作業
塩ノ岐地区、星和栄さんのお宅はリンドウを主力とした花卉農家。収穫しているリンドウは、真紅。南会津町の花卉農家が作出した品種で、市場での人気が高い。その他にも初夏から晩秋にかけ収穫できるよう、約1haの圃場に7、8種類のリンドウを栽培している。

長浜地区の株式会社ヒロタテクノは、平成21年に創立の金属製品の製造を行う誘致企業のひとつ。

Agriculture is a key industry in Tadami Town. The primary crop is rice, but the export value of Tadami tomatoes is equal to the value of its rice. This kind of tomato is known as the “Nango Tomato”, and has its own brand, trademark registration, and excellent reputation. In order to maintain the public industries of agriculture and forestry, it is necessary to train new generations to sustain the local agriculture and forestry industries.

The town is advertising widely to enterprising companies, to attract them to the area. Currently, 8 companies are operating within Tadami. One company has approximately 100 employees, and has produced many job opportunities. Such companies especially motivate the young people studying or working in big cities to return to their hometowns; other young people who were born in big cities also come to the area to seek employment. The companies also promote collaboration between different industries, and proposing support measures for new industries and local businesses, aimed at tackling community issues.

Tadami has high expectations for the new eco-tourism industry and tourism promotional industry. The prestige of the Biosphere Reserve label, along with the beautiful natural environment, culture, and history will also be used to promote industry in Tadami.

度情報化社会のインフラを整えました。そして、広く企業を誘致し、現在8社が操業しています。百人規模の企業もあり、多くの雇用を生み出し、とくに若者のUターン、Iターンの動機付けとなっています。町の充実した支援制度をもとに、新たな企業の誘致に取り組んでいます。

次世代への展望

町では、地域の課題解決に向け取り組むコミュニティ・ビジネスへの支援策を打ち出し、産業間の連携と産業おこしを推進しています。土木建設業については、従来の公共事業依存型から農林業、福祉・環境事業など新たな分野への転換をはかり、商業者については、販路の開拓、特産品づくりの推進、観光業との連携などが求められています。

農家民泊や滞在型体験プログラムの提案など、新たな観光業もすすめられ、ユネスコエコパークの理念を活かし、また優れた自然環境、文化・歴史を活かし、エコツーリズムの推進に期待が寄せられています。

町内食品製造業者の製品　地元の食材、地域の伝統的な味を活かした食品は観光客にも人気が高い。

安心、快適に暮らす

Living Safe and Comfortable

JR只見線は、会津若松市の会津若松駅から新潟県魚沼市の小出駅間135.2㎞を結ぶ。右の只見ユネスコエコパークのラッピングバスは、只見駅、会津川口駅間を走る代行バス。

過疎化高齢化が進む只見町での暮らしは厳しい環境下にありますが、その中でも自然との共生意識を持ってまちづくりを進め、すべての町民が平等に、安心して快適に暮らせるように生活環境の整備、充実を図っています。

交通網

タクシーを除くと唯一といえる公共交通機関であるJR只見線は、平成23年新潟・福島豪雨により大きな被害を受け、現在も只見駅と金山町・会津川口駅間が代行バス輸送になっています。町では、完全復旧に向けて沿線自治体や地元住民、団体と活動を展開するとともに、「雪んこタクシー」など、町独自の多目的交通システムの整備も順次進めています。

「雪んこタクシー」は只見町商工会が運営主体となり運行されるデマンドタクシー。平日定時運行の予約制乗合タクシーで、おもに朝日診療所への通院や買い物に利用され、高齢者を中心に1日あたり50人ほどの利用がある。

除雪

現在、工事が進められている国道289号新潟県境部は、冬期間の新潟方面への唯一のアクセス道路となるため、早期開通が望まれています。また、町内における集落間道路や生活道路の整備・危険箇所の解消など道路交通環境の向上も常に図られています。

町内全域が特別豪雪地帯に指定され、例年2メートル以上の積雪がある只見

冬期の通行確保のため、昼夜を問わず稼働する除雪車。

町では、住民の暮らしを守るための体制を万全に整えています。積雪のある期間、除雪ステーションを置いて24時間態勢で備え、深夜から道路等の除雪を行います。また、各地区振興センターや集落にも除雪機等が配備され、地域内での除雪作業が行われるとともに、高齢者世帯などへの支援策や補助制度も整っています。

住環境・衛生

自然と共生する美しいふるさとの景観をつくることを目標とし「うつくしい只見町の風景を守り育てる条例」を平成11年に制定しました。これは、屋根や壁のイメージカラーを指定、建築物、屋外広告・道路景観、緑化・環境美化やその他の開発行為に関する事項を定めるものです。

ゴミの分別収集・資源化やし尿処理、火葬業務は南会津地方環境衛生組合により行っています。また、只見町資源リサイクルセンターでは、集落排水処理施設から排出される汚泥の再資源化を図り、製造したコンポスト肥料を町民に販売しています。

南会津町、下郷町、只見町の3町が共同で運営する南会津地方環境衛生組合は、ごみの収集運搬などの業務を広域的に行い、効率的で円滑な環境衛生業務をすすめている。

防　災

平成23年新潟・福島豪雨災害により只見町洪水（土砂災害）ハザードマップを見直し、町のホームページ等で広く告知しています。また、只見町消防団が、平成26年度は322人（婦人消防隊含む）の団員で組織され、南会津広域消防署只見出張所と連携し、火災、災害、事故時に出動しています。

只見町洪水（土砂災害）ハザードマップ〈図は長浜、荒島地区〉各地区ごとに危険箇所と避難場所を詳細に明示してある。

南会津広域消防署只見出張所は、長浜地区にあり、署員12名、消防車1台、救急車1台、連絡車1台で編成される。

Living in Tadami Town could become difficult, as it faces both a decreasing and aging population. However, Tadami is currently carrying out town planning programs with the intent to coexist with the natural environment, while striving to maintain/ enhance the natural biome. Tadami's goal is for all of its townspeople to be able to lead fair, safe, and comfortable lives.

Since public transportation is insufficient in the town, Tadami is in the process of creating its own, multi-purpose transportation system. Furthermore, in anticipation of the accumulated snow in winter, a "Snow Removal Station" has been created for removing snow on the roads at night.

In 1999, a municipal bylaw was enacted to preserve and foster the beautiful landscape of Tadami. In this manner, Tadami will strive to manage the environmental health and planning of a beautiful and pristine town.

人を呼ぶまちの魅力

The Charm of an Inviting Town

浅草岳 Mt. Asakusa

只見町からの登山道は2本あり、入叶津、田子倉が登山口となります。どちらもブナをはじめとする巨木が多く見られるコースで、原生的な森にはじまり森林限界の草原まで、多彩な姿を楽しめます。7月、山頂付近の草原は、ヒメサユリなど、花の季節を迎えます。

只見町の魅力は、なんといっても手付かずの自然が広大な面積にわたり広がっていることです。

本格的な登山を楽しむなら浅草岳、会津朝日岳*がおすすめです。どちらも懐深い中級山岳で、たっぷりと自然に浸ることができます。とくに浅草岳は山神杉のブナの森、沼ノ平を擁し、一帯のブナ林は国内屈指と言われています。

手軽に楽しめる人気のコースは、布沢（ふざわ）地区の「恵みの森」、「癒しの森」です。「恵みの森」は、沢沿いに広がるブナ林を訪れるコースで、「癒しの森」は、金山町との境をなす若々しいブナの尾根を歩きます。

春の花の季節であれば、町中の散策もおすすめです。フクジュソウ、カタクリ、キクザキイチゲなどが町内あちらこちらに咲き乱れます。

なにげない風景のどこを切り取っても美しい只見町は、四季折々、訪れる人に感動を与えてくれます。

＊ 会津朝日岳は豪雨災害の影響で平成26年現在、登山禁止ですが、27年度より登山可能となります。

只見保養センター ひとっぷろまち湯
平成25年にリニューアルされた入浴施設です。お食事も充実しています。

歳時記会館　只見ダム近くのレストランと物産販売のお店。只見湖の景観を眺めながらお食事を楽しめます。(冬期休館)

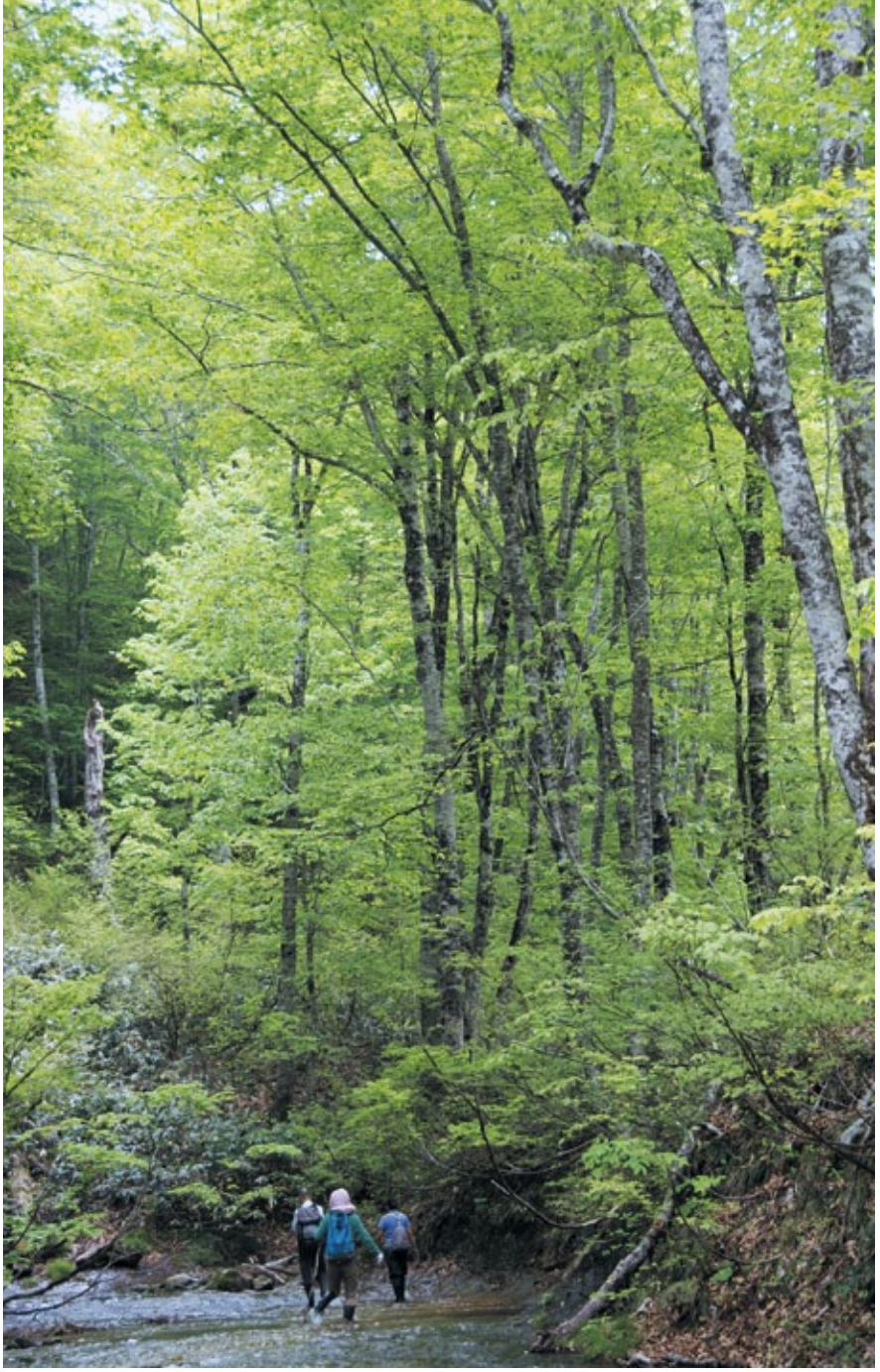
田子倉レイクビュー　田子倉湖畔のレストラン、売店です。雄大な田子倉湖をまわる遊覧船も運航しています。(冬期休館)

歴史の道を歩く
八十里越 Historic Road – *Hachiju-Ri Goe*

文化庁により「歴史の道百選」に選定された八十里越は、会津と越後を結ぶ重要な街道でした。幕末期、戊辰戦争の舞台となり、河井継之助が長岡から会津へ越えた際、「八十里腰抜け武士の越す峠」と詠んだとされます。

現在歩かれている道は、明治27年に開削された新道です。うっそうたるブナ林、開放的な湿原の広がる田代平など山の楽しみとともに歴史を偲ぶルートとなっています。天保14年に開削された古道は、ルートを解明し、整備が進められようとしています。山神杉のブナの森、沼ノ平のブナ林を通る古道の復活に期待が寄せられています。

木ノ根峠近くのブナの巨木には、行き交った人々による古いキリツケが残されている。



恵みの森 Megumi-No Mori

林野庁の指定する保護林「郷土の森」としては国内最大規模です。
大滝沢沿いに美しいブナ林が続きます。

只見町観光まちづくり協会　只見駅舎内にある只見町のインフォメーションセンター。宿泊予約、観光案内はこちらです。

只見スキー場　ファミリー向きのスキー場です。レストラン「やまびこ」も同時オープンされます。（12月下旬～3月開業）

青少年旅行村いこいの森　コテージ、バンガローなどもある、森に囲まれたキャンプ場。各種体験もできます。（冬期休業）

Pictorial Map of Tadami

只見町絵地図

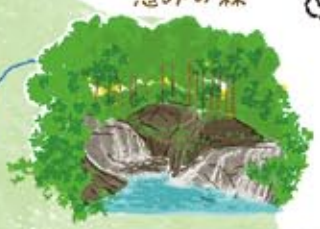
森林の分校 ふざわ

●さまざまな山村体験や、交流の場として、廃校になった旧分校をそのまま利用している宿泊・体験施設です。山の幸をふんだんに使った田舎料理が好評です。「癒しの森」「恵みの森」の拠点としてもご利用いただけます。

至 会津坂下 IC
会津若松

癒しの森

恵みの森



布沢

布沢川

坂田

荒島

熊倉

亀岡

小林

成法寺

深沢

大倉

長浜

梁取

二軒在家

伊南川

至 南会津町田島
西那須野塩原 IC
白河 IC

塩ノ岐

黒谷入

倉谷

黒谷川

塩ノ岐川

会津只見考古館

●福島県指定の史跡、窪田遺跡に建つ考古館では、窪田遺跡の出土品を中心に、町内の考古資料を展示しています。とくに、伊南川流域で初めて確認された再葬墓が再現されています。また、前庭には、出土した住居跡から復元した竪穴式住居が３棟立ち並んでいます。（冬期休館）

深沢温泉
季の郷 湯ら里

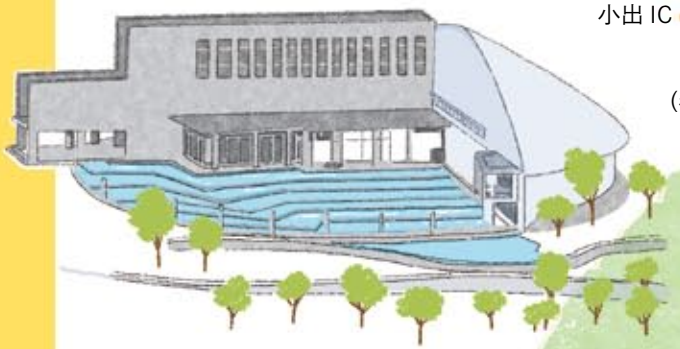
●只見町唯一の温泉付き宿泊施設です。レストラン、コンベンションホール、広い芝生の前庭を備え、各種イベントも行われます。別館の「むら湯」とともに日帰り入浴も楽しめます。

河井継之助記念館

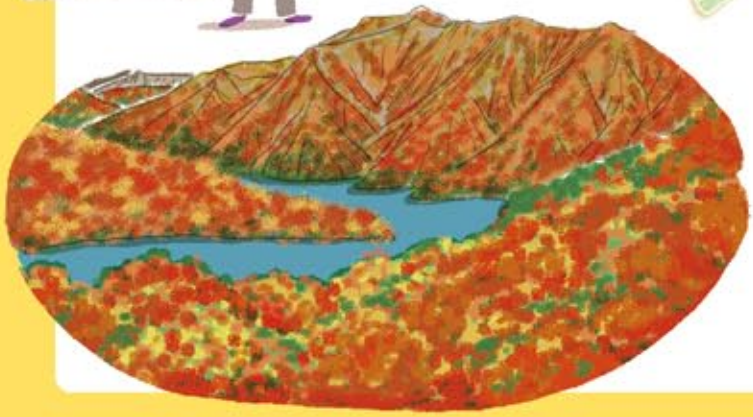
●幕末の長岡藩家老、河井継之助は、慶応４年（1868)、八十里越を越え只見入りしました。戊辰戦争、長岡での闘いで負傷した傷がもとで、記念館の建つ塩沢が終えんの地となりました。終えんの間が移設され、戊辰戦争の史料、司馬遼太郎の描いた『峠』の世界、司馬遼太郎の書などが展示されています。近くの医王寺には継之助の墓があり、町の史跡となっています。（冬期休館）

只見町ブナセンター

●只見町の豊かな自然環境を解説・展示する博物館です。企画展、講演会、自然観察会の開催も定期的に行っています。また、只見町内の学術調査・研究の拠点であり、只見ユネスコエコパークの理念実現のための推進母体でもあります。



秋の田子倉湖



●新潟県との県境に広がる田子倉湖周辺の山岳地帯は、越後三山只見国定公園に指定され、絶景が続きます。六十里越雪わり街道は、冬期間通行止となります。

●会津朝日岳から丸山岳に続く稜線は、只見ユネスコエコパーク、核心地域の中核となります。

町民とともに協働のまちづくり

Town Planning with Residents

定例議会の様子。平成26年6月会議から議会中継のインターネット配信を行っている。

只見町は地理的環境などの条件から、合併をせず「住民の自立と参加による町づくりを進める」ことを選択しました。これを受け「町民とともにつくる町づくり指針」を第六次只見町振興計画の基本計画として、その実現に向け町民と協働でまちづくりを進めています。

時代の変化に対応する行政

社会情勢や地方自治体を取り巻く環境の変化に対応し、平成26年に組織改革を行い、独自性のあるまちづくりのために地域課題を包括的に扱う総合政策課の新設、地域の学びの場、地域づくりの拠点として3地区センターを公民館的機能を持つ「振興センター」に改変しました。一方、行政サービスや地域づくりを効果的、効率的に行うために広域組織や組合等*を近隣市町村と設立、加入して共同で運営しています。

開かれた議会運営

只見町議会は、平成24年に只見町議会基本条例を施行しました。これは、議会改革・議会活性化に取り組み、政策形成や行政監視の役割を果たすとともに、町民協働の運営を進め、活力ある地域づくりと町民の福祉の向上に資することを目的に制定したものです。

また、議長が議会開会を行うことのできる「通年議会制」を採用し、議会主導で問題の調査や審議に取り組める体制を整えました。開かれた議会実現のため、本会議や委員会の議事録、活動報告等をホームページ上で閲覧できるほか、各地区、集落に出向いて議会報告会、意見交換会なども開催しています。

＊南会津地方広域市町村圏組合、南会津地方環境衛生組合、只見川電源流域振興協議会、あいづふるさと市町村圏協議会など

Tadami Town did not merge with other municipalities due to geographical/ environmental conditions. Instead, the town decided to "promote town planning with the support and cooperation of residents". In this vein, the "town-planning with the residential support policy" is a basic tenant of the sixth Tadami Promotion Plan, which is aimed at promoting industry in the town with the support of its residents.

Tadami Town Council adopted a "year-round council system", and arranged a system to investigate and deliberate town issues, led by the council. Additionally, the public can peruse the minutes of each meeting and activity reports on the town website. Briefing sessions are also held by the council.

「只見議会だより」は年4回発行。わかりやすい広報を目指している。

「広報ただみ」は毎月発行。毎週発行の「おしらせばん」とともにきめ細かな情報を町民に提供している。

只見町へのアクセス

お車でのアクセス

- 磐越自動車道 新潟中央IC — 80km — 磐越自動車道 会津坂下IC — 15km — 磐越自動車道 会津若松IC — 50km — 東北自動車道 郡山IC
- 只見町役場 — R252 64km — 磐越自動車道 会津坂下IC
- 只見町役場 — R289 54km — 南会津町 田島 — R289 12km — 下郷町 — R289 37km — 東北自動車道 白河IC — 163km — 東北自動車道 仙台宮城IC
- 南会津町 田島 — R121/R400 51km — 東北自動車道 西那須野塩原IC — 139km — 東北自動車道 川口JCT
- 只見町役場 — R252 60km（冬期通行不可） — 磐越自動車道 新潟中央IC — 98km — 関越自動車道 小出IC — 205km — 関越自動車道 練馬IC

町民憲章

昭和54年5月3日制定

美しい山なみと豊かな流れ　そして雪のふるさと
ここに生きる私たちは　先人の努力をたたえ
その忍耐と創造の歴史をうけ継ぎ
活力あふれる住みよい町づくりをめざして
この憲章を定めます

一、ゆたかな緑ときれいな水をまもり
美しい町をつくりましょう

一、互いに助け合い親切をつくし
楽しい町をつくりましょう

一、産業をおこしみんなで働ける
豊かな町をつくりましょう

一、教養を深め心と体をきたえ
文化の町をつくりましょう

一、きまりを守り良い風習を育て
住みよい町をつくりましょう

イワっぺ　ブナりん　アカショウちゃん

只見町キャラクター　©Tadami

［町の花］コブシ

山里に遅い春を告げるコブシは、古くから豊作祈願の花として親しまれてきました。

［町の鳥］ウグイス

日本三鳴鳥の一つに数えられるウグイスは、只見の人々にとっても春の訪れを感じさせてくれるなじみ深い鳥です。

［町の魚］イワナ

河川の最上流域に生息するイワナは、日本の渓流にすむ代表的な淡水魚で、只見町のほとんどの水域に見られます。

［ホームページ］

只見町ではホームページを開設し、町民のくらしに密接した情報や、町の最新情報を発信しています。

http://www.tadami.gr.jp/

［町の木］ブナ

うっそうと繁るブナは只見町の森を代表する樹木です。四季それぞれの美しさを見せてくれます。

発　行　**福島県只見町**

只見町役場総務課

〒968-0498　福島県南会津郡只見町大字只見字雨堤 1039

TEL 0241-82-5210　FAX 0241-82-2117

e-mail：soumu@town.tadami.lg.jp

平成27年3月発行

制作：風光舎